

令和 3 年度 入学者
(2021)

岐阜大学大学院教育学研究科
学生募集要項

令和 2 年 7 月



岐阜大学大学院教育学研究科

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1 TEL (058) 293-2206・2209
教育学研究科ホームページ <http://www.ed.gifu-u.ac.jp>

岐阜大学大学院教育学研究科 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

【教育目標】

本研究科は、社会の多様な要請に応えられる高度な専門的知識と教育実践能力を兼ね備え、地域の教育を中心となって担っていく教育専門職および教育関係者を養成・再教育していきます。

【求める学生像】

本研究科は、学校教育に深い关心があり、学部等で培った基礎的な教育に関する理論と実践能力を基礎とし、学術理論と教育との関係について探究しようとする人、ならびに、教科の背景となる専門領域の学問を深めることに意欲をもつ人を求めます。

さらに、教職大学院では、学校現場の実践や開発に即戦力として貢献する高度な教育専門職を養成します。学校管理職養成コースは、自律的および協働的な学校運営を推進できるマネジメント力を身につけたい現職教員を求めます。また、教育実践開発コースは、授業開発、教育臨床、特別支援教育に関する高度な課題解決力を身につけたい現職教員や、学校で活躍できる応用力を求める学部生を求めます。

目 次

| | ページ |
|-------------------------------------|-----|
| 1 入学者選抜関係日程 | 1 |
| 2 専攻別募集人員 | 2 |
| 3 出願資格 | 3 |
| 4 出願手続・方法 | 4 |
| 5 入学者選抜方法（試験日時及び場所等） | 7 |
| 6 配点 | 15 |
| 7 入学者選抜試験の合否判定における欠格基準 | 17 |
| 8 合格者発表 | 17 |
| 9 入学手続 | 17 |
| 10 入学料及び授業料 | 17 |
| 11 入試結果の情報開示の案内 | 18 |
| 12 個人情報の取り扱いについて | 18 |
| 13 障害等のある者の出願に当たっての事前相談 | 19 |
| 14 夜間・遠隔教育における教育方法の特例措置について | 20 |
| 15 長期履修学生制度について | 21 |
| 16 修業年限短縮の特例について | 21 |
| 17 大学院学生の学部開講科目の受講について | 21 |
| 18 入試統計 | 22 |
| 19 大規模災害により被災した岐阜大学入学志願者の検定料の免除について | 24 |
| 20 その他（本学への交通機関等） | 24 |

教育学研究科案内

| | |
|--------------|----|
| I 研究科の履修方法 | 26 |
| II 研究科の授業科目 | 27 |
| III 修士論文等題目例 | 27 |
| IV 教育職員免許状 | 33 |

[添付書類] 出願書類一式（綴じ込み）

1 入学者選抜関係日程

| | |
|-------|---|
| 出願期間 | 令和2年8月31日（月）～9月4日（金） 持参の場合：午前9時から午後4時30分まで受付 郵送の場合：9月4日（金）午後4時30分までに必着 |
| 試験日 | 令和2年9月26日（土） 〈全専攻の入学試験〉 令和2年9月27日（日） 〈心理発達支援専攻（臨床心理学コース）のみ2段階選抜の第2日目とする〉 会場：岐阜大学教育学部棟 |
| 合格者発表 | 令和2年10月9日（金）12時 |
| 入学手続 | 令和3年2月17日（水）予定 |

（備考）

本要項の「3 出願資格」の(3)及び(10)に該当する者における、個別の入学資格審査関係日程は以下のとおりである。

| | |
|-----------|---|
| 出願期間 | 令和2年8月17日（月）～8月21日（金） 持参の場合：午前9時から午後4時30分まで受付 （ただし土日祝日は除く。） 郵送の場合：8月21日（金）午後4時30分までに必着 |
| 資格審査の結果通知 | 令和2年8月31日（月）までに合否を通知 |

障害等のある者の出願に当たっての事前相談期限

| | |
|-------|--------------|
| 相談の期限 | 令和2年8月21日（金） |
|-------|--------------|

2 専攻別募集人員

一般選抜及び派遣教員・現職教員等

| 専 攻 | コ ー ス | 分 野 | 募集人数 |
|--------|----------|---|----------|
| 教職実践開発 | 学校管理職養成 | 学校経営, 学校改善, 組織開発 | 25人 ※ |
| | 教育実践開発 | 授業開発, 教育臨床, 特別支援教育 | |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 臨床心理学 | 10人 |
| | 学校心理学 | 教育心理学, 発達心理学, 認知心理学 | |
| | 特別支援教育 | 障害児心理, 障害児病理, 障害児教育 | |
| 総合教科教育 | 言語社会 | 国語領域(国語科教育, 国語学, 国文学, 漢文学) 社会領域(社会科教育, 歴史学, 地理学, 法律学, 政治学, 経済学, 哲学) 英語領域(英語科教育, 英語学, 英米文学) | 34人 |
| | サイエンス | 数学領域(数学科教育, 代数学, 幾何学, 解析学) 理科領域(理科教育, 物理学, 化学, 生物学, 地学) 技術領域(技術科教育, 木材加工学, 金属加工学, 機械工学, 電気電子工学, 情報工学) 家政領域(家庭科教育, 被服学, 食物学, 住居学, 家庭経営学, 保育学) | |
| | 芸術身体表現 | 音楽領域(音楽科教育学, 音楽学, 作曲, 作曲理論, 器楽A(ピアノ), 器楽B(管楽器), 声楽) 美術領域(美術科教育, 絵画, 彫刻, デザイン, 工芸, 美術理論・美術史) 保健体育領域(保健体育科教育, 体育学, 運動学, 学校保健) | |
| | カリキュラム開発 | カリキュラム開発, 教育システム開発, 学習情報開発 | |
| 合 計 | | | 69人 |

(備考)

- 1 募集人員には、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の趣旨等に基づく岐阜県教育委員会・岐阜県内市町村教育委員会及び岐阜大学教育学部附属小・中学校長から推薦を受けた現職教員の受け入れ枠を含む。
- 2 大学の学部第3年次学生を対象とする飛び級による学生の本研究科入学者選抜試験日は、令和3年2月6日(土)を予定している。
- 3 他専攻との併願は認めていない。

※今回の募集では、教育実践開発コースのみを募集する(募集人数約10名)。

なお、学校管理職養成コースの入学者選抜試験は、令和3年2月6日(土)を予定している(募集人数約15名)。

(1) 夜間・遠隔教育について

本学大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻、心理発達支援専攻、総合教科教育専攻の3専攻からなり、昼・夜開講により学生を受け入れている。夜間・遠隔授業等により単位を履修することを志望する者を対象に、一部の授業科目について熊本市のサテライト教室並びにインターネット接続された機器等を備えた自宅等においても授業を履修できる。(14 夜間・遠隔教育における教育方法の特例措置について(20ページ)参照)

夜間・遠隔授業を志望する者は、受講を希望するサテライト教室等名又はインターネット接続された機器等を備えた自宅等及び連絡先のE-mailアドレスを志願票に明記すること。

「インターネット接続の自宅等」での受講を希望する者は、インターネット接続された機器等が遠隔授業の履修に充分な性能を備えていることが条件であり、履修に障害がある場合は学生の責任で充分な性能の機器等を備えなければならない。志望にあたっては、下記のWebページを参照して機器等の性能を確認しておくこと。

岐阜大学教育学研究科総合教科教育専攻カリキュラム開発コース：<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/>

[jp/~kyoiku/gifuuedu-cont/about/cur.html](http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/gifuuedu-cont/about/cur.html) 【カリキュラム開発コースについて】中の「自宅等から遠隔授業を受講するために」
[岐阜大学教育学研究科教職実践開発専攻教育実践開発コース http://www.ed.gifu-u.ac.jp/kyoshoku/1_curriculum.html](http://www.ed.gifu-u.ac.jp/kyoshoku/1_curriculum.html)

(2) 心理発達支援専攻「臨床心理学コース」について

- ① このコースの募集は、将来「公認心理師」／「臨床心理士」資格を得ることを目的として、それぞれにおいて必要な科目を修得し、大学院を修了することを希望する者を対象とする。
- ② 本研究科は、心理発達支援専攻「臨床心理学コース」を修了した者が、「臨床心理士」の受験資格を得ることができるよう、財団法人日本臨床心理士資格認定協会により、第1種指定大学院として指定を受けている。
- ③ 「臨床心理学コース」の授業科目は、昼間のみの開講であり、岐阜大学教室においてのみ履修が可能である。また、在学期間中は、学内外における実習活動が平日に義務付けられる。
- ④ 「公認心理師」資格を得るために、大学学部卒業時において公認心理師となるために必要な科目を修得していなければならない。
- ⑤ 他専攻又は他コース（領域）からの転コースは認めていない。

(3) 各専攻又はコース等の履修方法等の詳細については、26ページに記載したとおりである。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

なお、教職実践開発専攻出願者は、教員免許状を取得（見込みを含む）している者又は本研究科が教員免許状を取得している者と同等とみなす者を前提条件とし、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び令和3年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び令和3年3月までに授与される見込みの者
- (3) 学校教育法第102条第2項の規定により本学大学院又は他大学の大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者（注）参照
- (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者
- (6) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和3年3月までに修了見込みの者
- (7) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和3年3月までに修了見込みの者
- (8) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者

- (9) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和3年3月31日までに22歳以上に達する者
 （これによる入学資格審査の出願手続は、以下のとおりである。）
- ① 資格審査のための出願期間
 令和2年8月17日（月）～8月21日（金）
 提出書類持参の場合の受付は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし土日祝日は除く。
 郵送の場合も8月21日（金）午後4時30分までに必着のこと。
 [書類提出は、「出願書類提出先」（6ページ参照）に同じ。]
- ② 提出書類
 ア 履歴書（本要項の「志願票」裏面並びに表面に記入のこと）
 イ 最終学校の成績証明書及び卒業証明書（3ヶ月以内に発行されたもの）
 ※ 外国において発行される証明書等には、日本語訳を添付すること。また公証人による公証書が必要となる場合があるので、事前に出願書類提出先へ確認すること。
 ウ 研究内容実績（官公庁及び企業等の所属長が証明したもの）
 エ 大学院入学希望の動機・目的を記した書類
 オ 大学院で希望する学習、研究分野及びテーマを記した書類
 カ 大学卒業程度以上の学力に相当すると、自ら評価した理由書
 ※ 具体的な職務内容及び職務中に上げた業績、受講した講習・通信教育並びに取得した資格・免許等を述べる中で、大学卒業程度以上の学力に相当していると考える理由を示すこと。
- ③ 審査方法等
 提出書類に基づき、書類審査を行う。
- ④ 資格審査の結果は、令和2年8月31日（月）までに出願者へ学務係より通知する。

任意様式
 (それぞれ別葉で作成すること。)

4 出願手続・方法

(1) 出願期間

令和2年8月31日（月）～9月4日（金）

持参の場合の受付は、午前9時から午後4時30分までとする。

郵送の場合は、令和2年9月4日（金）午後4時30分までに必着のこと。

なお、検定料の振込みは令和2年9月4日（金）の午前中までに行うこと。

(2) 出願書類

不足書類がある場合手続きを行えないため、7ページ以降に示す選抜方法を参照し、該当する書類を必ず確認し全て提出すること。

| 出願書類 | 提出該当者 | 注 意 事 項 |
|-----------|-------|--|
| 入 学 志 願 票 | | |
| 受 驗 票 | | |
| 写 真 票 | | |
| 試験場座席番号票 | | 本学所定の用紙による。 |
| 履 歴 書 | 全 員 | 本学所定の用紙による。（入学志願票の裏面） |
| 研 究 計 画 書 | | 本学所定の用紙による。 |
| 成 績 証 明 書 | | 卒業（見込）した大学の学長等が作成したもの。なお、大学院を修了（見込）している場合は併せて提出すること。 |

| 出願書類 | 提出該当者 | 注 意 事 項 |
|------------------------|---|---|
| 卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書 | 全 員 〔出願資格（2） 該当者を除く〕 | 卒業（見込）した大学の学長等が作成したもの。なお、大学院を修了（見込）している場合は併せて提出すること。 |
| 学位授与証明書又は学位授与見込証明書 | 出願資格（2） 該当者のみ | 大学改革支援・学位授与機構が発行したもの。 |
| 教育職員免許状授与証明書 | 心理発達支援専攻、総合教科教育専攻に出願する者で、出願資格（9）該当者のみ | 免許状を授与した都道府県教育委員会が作成したもの。 ※免許状の原本及びその写しは受け付けません。（以降同様） |
| 教育職員免許状授与証明書 | 教職実践開発専攻に出願する者で、免許状既取得者 | 免許状を授与した都道府県教育委員会が作成したもの。 ※免許状の既取得者はこちらを提出すること。 |
| 教育職員免許状取得見込証明書 | 教職実践開発専攻に出願する者で、免許状取得予定者 | 在籍する大学の学長または学部長等が作成したもの。 ※令和3年3月末取得予定者はこちらを提出すること。 |
| 教育実践論文・研究業績等報告書 | 教育関係経験者のみ (B入試・C入試志願者) | 「B入試（現職教員等選抜）」、「C入試（派遣・推薦教員選抜）」を希望する者は、実践論文・記録等のうち主要なものの5点以内の原本又は写しを添えて、本学所定の用紙にその概要を記入して提出すること。 |
| 受験承諾書 | 大学院在学者及び現職教員等 | 本学所定の用紙による。他の大学院に在学中の者は、学長又は研究科長が作成したもの。現に官公庁、学校、会社等に在職している者で、現職のまま入学を希望する者は所属長が作成したもの。 |
| 推薦書 | 岐阜県教育委員会・岐阜県内市町村教育委員会及び附属小中学校からの派遣・推薦教員のみ (C入試志願者) | 「C入試（派遣・推薦教員選抜）」志願者は、岐阜県教育委員会、岐阜県内市町村教育委員会又は岐阜大学教育学部附属小・中学校長が作成した推薦書を提出すること。 任意様式（A4サイズ） |
| 楽曲申告書 | 音楽領域の当該志願者 | 選択科目（器楽A、器楽B、声楽）の選択者（C入試志願者除く）のみ、本学所定の用紙により提出すること。 (選択科目によっては楽譜の提出もあるので注意すること) |
| 作品（楽譜又はCDに録音した音源3点以内） | 音楽領域の作曲志願者 | 選択科目（作曲）の選択者のみ、楽譜は白黒でコピーの上製本すること。楽譜・音源とも無記名とする。 |
| 語学試験成績証明書 (原　本　) | 英語の試験免除希望者（A入試のみ） (英語領域志願者及び外国人留学生除く) | 平成30年4月以降に受験した、次のいずれかの成績証明書（原本）を提出すること。 ①実用英語技能検定（英検）準1級以上 ②TOEFL®-iBT 76点以上 ③TOEIC® Listening & Reading Test（公開テスト）700点以上 ④IELTS 6.0以上 提出された原本は原則として返却しないため、返却を希望する場合は、証明書のサイズに見合う返信用封筒に送料分の郵便切手を貼り、受取り先の住所・宛名を記入して出願書類に同封すること。（試験終了後に返送します。） |
| 検定料 | 全 員 | 30,000円 本学所定の「入学検定料払込用紙」に住所、氏名等必要事項を記入の上、検定料を最寄りの銀行で振込み、振込み後は「振込証明書」を入学志願票に貼り、出願書類として提出すること。（振込手数料はご負担願います。） なお、この検定料の振込みは、「電信扱」となっているので、出願期間最終日での振込みは午前中までに行うこと。（午後の取扱いができない銀行があるので注意すること）また、「岐阜大学検定料振込金（兼手数料）受領書」は本人が大切に保管しておくこと。 |
| 振込証明書 | | |

| 出願書類 | 提出該當者 | 注 意 事 項 |
|-----------------|------------------|---|
| 住民票記載事項証明書等 | 外 国 人 | 現に日本国に居住している外国人は、居住している市区町村長の発行するもので、在留資格が明示されているもの。その他の者は、本人パスポートの記載事項があるすべてのページの写を提出してください。 |
| 日本語能力試験1級の合格証明書 | 教職実践開発専攻に出願する外国人 | 日本国際教育支援協会が発行したもの。 |
| あて名シール | 全 員 | 本学所定の用紙による。 |
| 返信用封筒 | | 本学所定の封筒に郵便切手694円分を貼り、受信場所、本人の氏名を記入すること。 |

備 考

- 1 証明書等は、3ヶ月以内に発行されたものとする（語学試験成績証明書除く）。なお、証明書類の写しは受けません。また、証明書記載の氏名が旧姓の場合は、戸籍抄本を添付すること。
 - 2 提出書類中、外国語で書かれた証明書等には、その日本語訳を必ず添付すること（語学試験成績証明書除く）。
- ※外国において発行される成績証明書、卒業（修了）証明書または卒業（修了）見込証明書等については、公証人による公証書が必要となる場合がありますので、事前に出願書類提出先へ確認すること。
- 3 受理した出願書類等の一切は返還しない。ただし、実践論文・記録等の原本及び返却希望者の語学試験成績証明書の原本については返却する。
 - 4 検定料返還に関する留意事項

①次の場合を除き、一旦領収した検定料は原則として返還しません。

- a 出願書類が受理されなかった場合
- b 検定料を誤って二重に振り込んだ場合
- c 検定料を振り込んだが、出願書類を提出しなかった場合

②返還請求の方法

次のa～fを明記した検定料払戻請求書を作成し、「岐阜大学検定料振込金（兼手数料）受領書」を添付して、岐阜大学教育学部学務係（〒501-1193 岐阜市柳戸1番1）まで郵送してください。（封筒には「検定料払戻請求書 在中」と朱書きしてください。）

なお、返還請求は令和2年9月11日（金）から9月25日（金）までにお願いします。

- a 返還請求の理由
- b 志願者氏名（フリガナ）、押印
- c 現住所
- d 連絡先電話番号
- e 志望専攻名等
- f 検定料を受け取る銀行名、支店名、預貯金種別、口座番号、口座名義（フリガナ）

5 国費外国人留学生である者は、事前に出願書類提出先へ申し出ること。

(3) 出願書類提出先

出願しようとする者は、出願書類を一括で取り揃え、本学所定の封筒に入れ、下記に提出すること。
郵送の場合は、簡易書留・速達とすること。

【〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学教育学部学務係 TEL 058-293-2206・2209】

5 入学者選抜方法

「A入試」(一般選抜),「B入試」(現職教員等選抜)又は「C入試」(派遣・推薦教員選抜)のいずれかとする。

| 入 試 区 分 | 選 択 方 法 (詳細については本項を確認してください) |
|-----------------------|--|
| (1) A入試 (一般選抜) | 筆記試験等, 口述試験及び成績証明書の結果を総合して判定。 |
| (2) B入試 (現職教員等選抜) * | 教育実践論文・記録, その他教育実践がはかり得る諸書類, 筆記試験等, 口述試験及び成績証明書の結果を総合して判定。 |
| (3) C入試 (派遣・推薦教員選抜) ※ | 教育実践論文・記録, その他教育実践がはかり得る諸書類, 小論文(教職実践開発専攻のみ), 口述試験及び成績証明書の結果を総合して判定。 |

* (3) C入試 (派遣・推薦教員選抜)について

| | |
|----------------------|---|
| 教職実践開発専攻 | 「筆記試験等」のうち【専門科目】及び【選択科目】の代わりに「教育実践論文・記録」及び「その他教育実践がはかり得る諸書類」をもってこれらに充て, 試験日には「筆記試験等」の【小論文】と「口述試験」を課す。 |
| 心理発達支援専攻 総合教科教育専攻 | 「筆記試験等(芸術身体表現コース音楽領域の実技試験を含む。)」の代わりに、「教育実践論文・記録」及び「その他教育実践がはかり得る諸書類」をもってこれに充て, 試験日には「口述試験」を課す。 |

(備考)

- 1 「教育関係経験者(◆)」は、(1)「A入試」又は(2)「B入試」のいずれかを選択し、受験するものとする。入試区分は事前に出願書類の入学志願票で申告すること。
(◆) (3)「C入試(派遣・推薦教員選抜)」対象となる、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例の趣旨等に基づく岐阜県教育委員会・岐阜県内市町村教育委員会及び岐阜大学教育学部附属小・中学校から派遣・推薦される現職教員を除く。

*教職実践開発専攻における、(2) B入試の「現職教員等」について

派遣・推薦教員を除き、現職教員及び教育関係諸機関に常勤職員として在籍している者で、入学年度の前年度の3月末日現在において常勤職員として3年以上の経験を有する者とする。

- なお、経験年月数の算出に当たっては、次のとおりとする。
- ・経験年月数は入学年度の4月1日現在で算出し、それ以前に退職する予定の時は退職予定日とする。
 - 月数が1か月未満の場合は、1か月に切り上げて算出する。
 - 休職期間は経験年月数に算入しない。
 - ・「臨時の任用職員」や「期限付常勤講師」等は上記の常勤職員に含まない。

2 A入試における英語の試験免除の措置

次に掲げるいずれかの語学試験の基準(点数)を満たしている者は、成績証明書(原本)の提出により「英語」の試験を免除し、出願する専攻・コース・領域における英語(◇)は満点を取得したものとする。

なお、外国人留学生の場合は、英語については日本語の試験を行うため対象外とする。

また、総合教科教育専攻言語社会コース英語領域は、独自試験を行うことで次に掲げる基準以上の英語力を測るため、試験免除の措置の対象外とする。

| 語学試験 | 基準(点数) | 出願する年度の2年前の 年度の4月1日以降に受 験したもの有効とする。 |
|--|--------|---|
| ① 実用英語技能検定(英検) | 準1級以上 | |
| ② TOEFL®-iBT (My Best scoresは活用しません) | 76点以上 | |
| ③ TOEIC® Listening & Reading Test (公開テスト) | 700点以上 | |
| ④ IELTS | 6.0以上 | |

◇試験科目「英語」について

教職実践開発専攻、心理発達支援専攻、総合教科教育専攻カリキュラム開発コース：必須科目の英語
総合教科教育専攻言語社会コース（英語領域除く）、サイエンスコース、芸術身体表現コース：
選択科目の基礎科目内の英語問題

(1) 試験日時及び場所等

試験日 令和2年9月26日(土)

教職実践開発専攻(教育実践開発コース)、心理発達支援専攻、総合教科教育専攻
令和2年9月27日(日)

心理発達支援専攻の臨床心理学コースのみ、2段階選抜として口述試験を実施する。
口述試験の実施に当たって、前日の筆記試験の結果により選抜し、その受験資格者
のみに対して実施する。

なお、受験資格者については、9月26日(土)の19時頃までに教育学部棟玄関に
掲示するとともに、岐阜大学教育学部・教育学研究科のオリジナルサイト(<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/index.html>)に掲載します。

試験場 岐阜大学教育学部棟

試験日程

① 通常の試験（英語免除措置者試験は次ページの②を参照のこと）

令和2年9月26日(土)

(心理発達支援専攻臨床心理学コースのみ、口述試験受験資格者は9月27日(日)に口述試験を実施)

| 専攻 | コース | 【A入試】筆記試験 | | 【B入試】筆記試験 | | 【C入試】筆記試験 | | 口述試験 | |
|--------|--------|--------------|-----------------|---------------|-----------------|---------------|-----------------|--|--|
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 必須科目 (専門) | 9:00~ 10:00 | 必須科目 (専門) | 9:00~ 10:00 | — | — | 13:30~ | |
| | | 選択科目 | 10:15~ 11:15 | 選択科目 | 10:15~ 11:15 | — | — | | |
| | | 必須科目 (英語) | 11:30~ 12:30 | 必須科目 (小論文) | 11:30~ 12:30 | 必須科目 (小論文) | 11:30~ 12:30 | | |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 必須科目 (英語) | 9:00~ 10:00 | | | | | 【A入試のみ】 9月27日(日) (筆記試験翌日) 9:30~ | |
| | | 必須科目 (専門) | 10:15~ 12:15 | | | | | | |
| | 学校心理学 | 必須科目 (英語) | 9:00~ 10:00 | 必須科目 (小論文) | 9:00~ 10:00 | | | | |
| | | 必須科目 (専門) | 10:15~ 12:15 | 必須科目 (専門) | 10:15~ 12:15 | | | | |
| | 特別支援教育 | 必須科目 (専門) | 9:00~ 10:00 | 必須科目 (専門) | 9:00~ 10:00 | — | — | 13:30~ | |
| | | 選択科目 | 10:15~ 11:15 | 選択科目 | 10:15~ 11:15 | — | — | | |
| | | 必須科目 (英語) | 11:30~ 12:30 | 必須科目 (小論文) | 11:30~ 12:30 | — | — | | |

| | | | | | | | | |
|--------|----------|------------------|-----------------|---------------|--|---|---|--------|
| 総合教科教育 | 言語社会 | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | — | — | 13:30～ |
| | | 選択科目 (英語問題含む) | 10:15～ 12:30 | 選択科目 | 10:15～ 12:00 | — | — | |
| | サイエンス | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | — | — | |
| | | 選択科目 (英語問題含む) | 10:15～ 12:30 | 選択科目 | 10:15～ 12:00 | — | — | |
| | 芸術身体表現 | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | — | — | |
| | | 選択科目 (英語問題含む) | 10:15～ 12:30 | 選択科目 | 10:15～ 12:00 音楽領域 10:15～ 12:30 | — | — | |
| | カリキュラム開発 | 必須科目 (小論文・英語) | 9:00～ 10:30 | 必須科目 (小論文) | 9:00～ 10:00 | — | — | |
| | | 選択科目 | 10:45～ 12:30 | 選択科目 | 10:45～ 12:30 | — | — | |

② 英語免除措置者試験【A入試のみ対象】

令和2年9月26日（土）

（心理発達支援専攻臨床心理学コースのみ、口述試験受験資格者は9月27日（日）に口述試験を実施）

| 専 攻 | コ ー ス | 筆 記 試 験 | | 口 述 試 験 |
|--------|-------------|-----------|-----------------------|--------------------------------------|
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 必須科目（専門） | 9:00～10:00 | 13:30～ |
| | | 選択科目 | 10:15～11:15 | |
| 心理発達支援 | 臨 床 心 理 学 | 必須科目（専門） | 10:15～12:15 | 9月27日（日） <u>（筆記試験翌日）</u> 9:30～ |
| | 学 校 心 理 学 | 必須科目（専門） | 10:15～12:15 | 13:30～ |
| | 特 別 支 援 教 育 | 必須科目（専門） | 9:00～10:00 | 13:30～ |
| | | 選択科目 | 10:15～11:15 | |
| 総合教科教育 | 言 語 社 会 | 必須科目（小論文） | 9:00～10:00 | 13:30～ |
| | | 選択科目 | 10:15～12:00 | |
| | サイエンス | 必須科目（小論文） | 9:00～10:00 | |
| | | 選択科目 | 10:15～12:00 | |
| | 芸 術 身 体 表 現 | 必須科目（小論文） | 9:00～10:00 | |
| | | 選択科目 | 10:15～12:00 | |
| | | | 【音楽領域】 10:15～12:30 | |
| | カリキュラム開発 | 必須科目（小論文） | 9:00～10:00 | |
| | | 選択科目 | 10:45～12:30 | |

（注）総合教科教育専攻言語社会コース英語領域は、独自試験を実施するため、英語試験免除は行わない。

受験上の注意（共通）

- 試験室は、当日教育学部棟玄関の掲示で確認すること。
- 受験者は、試験開始10分前までに入室、着席すること。
- 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻30分以内に限り、受験を認める。
- 試験時間中は、必ず受験票を机上に置くこと。

(2) 学力試験科目

A 入試（一般選抜用）

| 専攻 | コース | 試験科目 | | 口述試験 |
|--------|--------|--|---|-------------------------------------|
| | | 筆記試験（音楽領域のみ実技試験を含む。） | | |
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 必須科目 選択科目 | 教育学、英語（辞書（電子辞書は不可）持込み可） 授業開発、教育臨床、特別支援教育のうちから1科目選択 | |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 必須科目 | 臨床心理学（心理学一般を含む）、英語（辞書（電子辞書は不可）持込み可） | 志望理由、研究計画、専門分野における経験、知識、適性などについて問う。 |
| | 学校心理学 | 必須科目 | 心理学一般、英語（辞書（電子辞書は不可）持込み可） | |
| | 特別支援教育 | 必須科目 選択科目 | 障害児教育概論、英語（辞書（電子辞書は不可）持込み可） 障害児教育学、障害児心理学、障害児病理学のうちから1科目選択 | |
| 言語社会 | | 必須科目 選択科目 | 小論文 国語領域問題、社会領域問題、英語領域問題のうちから1科目を選択 | |
| | | 国語領域問題 基礎科目：国語科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可。ただし、外国人留学生の「日本語」受験者は、辞書持込み不可) 専門科目：国語科教育学、国語学、国文学、漢文学のうちから1科目選択 | | |
| 総合教科教育 | サイエンス | 社会領域問題 基礎科目：社会科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) 専門科目：社会科教育学、歴史学、地理学、法律学、政治学、経済学、哲学のうちから1科目選択 | | |
| | | 英語領域問題 基礎科目：英語科教育（英語問題を含む） 専門科目：英語教育学、英語学、英米文学のうちから1科目選択（いずれも辞書持込み不可） | | |
| | | 必須科目 選択科目 | 小論文 数学領域問題、理科領域問題、技術領域問題、家政領域問題のうちから1科目を選択 | |
| | | 数学領域問題 基礎科目：数学及び数学教育〔詳細は注4〕 (英語問題を含む) (辞書（電子辞書は不可）持込み可) | | |
| | | 専門科目：数学科教育学、代数学、幾何学、解析学（応用数学、統計学を含む）のうちから1科目選択 | | |
| | | 理科領域問題 基礎科目：理科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) | | |
| | | 専門科目：理科教育学、物理学、化学、生物学、地学のうちから1科目選択 | | |
| | | 技術領域問題 基礎科目：技術・工業に関する問題（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) | | |
| | | 専門科目：技術科教育学、木材加工学、金属加工学、機械工学、電気電子工学、情報工学のうちから1科目選択 | | |
| | | 家政領域問題 基礎科目：家庭科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) | | |
| | | 専門科目：家庭科教育学、被服学、食物学、住居学、家庭経営学、保育学のうちから1科目選択 | | |

| | | | |
|--------|----------|--|------------|
| 総合教科教育 | 芸術身体表現 | 必須科目 小論文 選択科目 音楽領域問題、美術領域問題、保健体育領域問題のうちから1科目を選択 音楽領域問題 基礎科目：音楽科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) 専門科目：音楽科教育学、音楽学、作曲、作曲理論、器楽A（ピアノ）、器楽B（管楽器）、声楽のうちから1科目選択 [詳細は別表1] 美術領域問題 基礎科目：図工・美術科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) 専門科目：美術科教育学、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論及び美術史のうちから1科目選択 保健体育領域問題 基礎科目：保健体育科教育（英語問題を含む） (辞書（電子辞書は不可）持込み可) 専門科目：体育学、運動学、学校保健のうちから1科目選択 | ※美術領域は注5参照 |
| | カリキュラム開発 | 必須科目 小論文、英語（辞書（電子辞書は不可）持込み可） 選択科目 カリキュラム開発基礎（広くカリキュラム開発に関わる基礎的知識を確認する問題） | |

- (注) 1 選択科目については、志願者が出願書類の入学志願票であらかじめ申告するものとする。
- 2 外国人留学生の場合、専攻毎に実施される必須科目または選択科目の英語については、日本語の試験を行うこととする。
その際、辞書（電子辞書は不可）の持込みを可とする。
ただし、国語領域の受験者は辞書の持込みを不可とする。
- 3 外国人留学生の場合、日本語の試験以外の筆記試験科目でも辞書の持込みを可とする。
ただし、試験当日の筆記試験開始前または開始直後に、監督教員が辞書を点検し、使用の可否を判断する。使用を認められた辞書を、筆記試験の時間中（9時～12時30分）に、他の辞書に取り替えることは認めない。
なお、使用を許可できる辞書には次の条件を課すので、辞書の選択に十分注意すること。
a 日本語の読み書きを補助する辞書に限り、使用を許可する。
b 辞書の書名が特定の専門分野に対応している辞書及び事典類は、使用を許可しない。
c 電子辞書は、使用を許可しない。
d その辞書が、試験内容に対して不公正な情報を与えると試験を行う専攻又はコース（領域）等が判断した場合は、その辞書の使用を許可しない。
- 4 数学（線型代数、微分積分学、群論、集合・位相）及び数学教育の一般的基礎的事項についての素養を確かめる問題。
- 5 美術領域志願者で制作活動をしている場合は、口述試験の際に作品又はその写真資料等を持参すること。

音楽領域学力試験（一般選抜）について

別表1

| 試験科目・実技 | | 試験時間 |
|---------|--|--|
| 基礎科目 | 音楽科教育 | 10：15～11：25 |
| 専門科目 | 以下7科目から1つ選択 (1) 音楽科教育学 (2) 音楽学 (3) 作曲 (4) 作曲理論 (5) 器楽A（ピアノ） (6) 器楽B（管楽器） (7) 声楽 | (1)(2)(3)(4) 試験時間 11：40～12：30 (5)(6)(7) 11：50より試験番号順に行う (試験開始まで練習可能) ※科目によって試験時間が前後する可能性がある |
| | 口述試験 | 13：30～ |

試験内容の詳細

| 試験科目 | 試験内容 | |
|------|---------------|--|
| 基礎科目 | 音楽科教育 | 音楽教育に関する基礎的・一般的な内容 |
| | (1) 音楽科教育学 | 音楽教育に関する専門的な内容 |
| | (2) 音楽学 | 音楽学に関する内容 |
| | (3) 作曲 | 作品の提出と和声（バス課題およびソプラノ課題） ※ P5 を参照のこと |
| | (4) 作曲理論 | 和声（バス課題）および理論に関する内容 |
| | (5) 器楽 A（ピアノ） | 任意の独奏曲（複数曲も可）を暗譜演奏のこと。 試験時間は 20 分以内とし、途中で打ち切ることもある。 |
| 専門科目 | (6) 器楽 B（管楽器） | 任意の管楽器の独奏曲（協奏曲を含む）を暗譜演奏のこと。 試験時間は 10 分以内とし、途中で打ち切ることもある。 伴奏者が必要な曲の場合は、各自同伴すること。 演奏曲のソロパートの楽譜（コピー可）を出願時に提出のこと。 |
| | (7) 声楽 | 任意の独唱曲を暗譜演奏のこと。 試験時間は 10 分以内とし、途中で打ち切ることもある。 伴奏者は各自同伴すること。 演奏曲の楽譜（コピー可）を出願時に提出のこと。 |

A入試（英語免除措置者用）、B入試（現職教員等選抜用）

| 専攻 | コース | 試験科目 | | 口述試験 | 志望理由、研究計画、専門分野における経験、知識、適性など |
|--------|--------|---|--|------|------------------------------|
| | | 筆記試験（音楽領域のみ実技試験を含む。） | | | |
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 必須科目 教育学、小論文（小論文は B 入試のみ） 選択科目 授業開発、教育臨床、特別支援教育のうちから 1 科目選択 | | | |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 必須科目 臨床心理学（心理学一般を含む）（B 入試は実施しない） | | | |
| | 学校心理学 | 必須科目 心理学一般、小論文（小論文は B 入試のみ） | | | |
| 総合教科教育 | 特別支援教育 | 必須科目 障害児教育概論、小論文（小論文は B 入試のみ） 選択科目 障害児教育学、障害児心理学、障害児病理学のうちから 1 科目選択 | | | |
| | 言語社会 | 必須科目 小論文 選択科目 国語領域問題、社会領域問題、英語領域問題のうちから 1 科目を選択 国語領域問題 基礎科目：国語科教育 専門科目：国語科教育学、国語学、国文学、漢文学のうちから 1 科目選択 社会領域問題 基礎科目：社会科教育 専門科目：社会科教育学、歴史学、地理学、法律学、政治学、経済学、哲学のうちから 1 科目選択 英語領域問題 基礎科目：英語科教育 専門科目：英語教育学、英語学、英米文学のうちから 1 科目選択（いずれも辞書持込み不可） | | | |

| | | | |
|--------|----------|--|---|
| 総合教科教育 | サイエンス | 必須科目 小論文 選択科目 数学領域問題, 理科領域問題, 技術領域問題, 家政領域問題のうちから 1 科目を選択 数学領域問題 基礎科目: 数学及び数学教育 [詳細は注 4] 専門科目: 数学科教育学, 代数学, 幾何学, 解析学 (応用数学, 統計学を含む) のうちから 1 科目選択 理科領域問題 基礎科目: 理科教育 専門科目: 理科教育学, 物理学, 化学, 生物学, 地学のうちから 1 科目選択 技術領域問題 基礎科目: 技術・工業に関する問題 専門科目: 技術科教育学, 木材加工学, 金属加工学, 機械工学, 電気電子工学, 情報工学のうちから 1 科目選択 家政領域問題 基礎科目: 家庭科教育 専門科目: 家庭科教育学, 被服学, 食物学, 住居学, 家庭経営学, 保育学のうちから 1 科目選択 | 志望理由、 識、研究計画、 適性などについて問う。 ※美術領域は注 5 参照 |
| | 芸術身体表現 | 必須科目 小論文 選択科目 音楽領域問題, 美術領域問題, 保健体育領域問題のうちから 1 科目を選択 音楽領域問題 基礎科目: 音楽科教育 専門科目: 音楽科教育学, 音楽学, 作曲, 作曲理論, 器楽 A (ピアノ), 器楽B (管楽器), 声楽のうちから 1 科目選択 [詳細は別表 2] 美術領域問題 基礎科目: 美術科教育 専門科目: 美術科教育学, 絵画, 彫刻, デザイン, 工芸, 美術理論及び美術史のうちから 1 科目選択 保健体育領域問題 基礎科目: 保健体育科教育 専門科目: 体育学, 運動学, 学校保健のうちから 1 科目選択 | |
| | 芸術身体表現 | 必須科目 小論文 選択科目 カリキュラム開発基礎 (広くカリキュラム開発に関わる基礎的知識を確認する問題) | |
| | カリキュラム開発 | 必須科目 小論文 選択科目 カリキュラム開発基礎 (広くカリキュラム開発に関わる基礎的知識を確認する問題) | |

- (注) 1 選択科目については、志願者が出願書類の入学志願票であらかじめ申告するものとする。
 2 英語領域の受験者は辞書の持込みを不可とする。なお、英語領域は英語免除措置は行わない。
 3 外国人留学生の場合、筆記試験科目での辞書の持込みを可とする。
 ただし、試験当日の筆記試験開始前または開始直後に、監督教員が辞書を点検し、使用の可否を判断する。使用を認められた辞書を、筆記試験の時間中（9時～12時30分）に、他の辞書に取り替えることは認めない。
 なお、使用を許可できる辞書には次の条件を課すので、辞書の選択に十分注意すること。
 a 日本語の読み書きを補助する辞書に限り、使用を許可する。
 b 辞書の書名が特定の専門分野に対応している辞書及び事典類は、使用を許可しない。
 c 電子辞書は、使用を許可しない。
 d その辞書が、試験内容に対して不公正な情報を与えると試験を行う専攻又はコース（領域）等が判断した場合は、その辞書の使用を許可しない。
 また、外国人留学生は英語については日本語の試験を行うため、英語免除措置は対象外とする。
- 4 数学（線型代数、微分積分学、群論、集合・位相）及び数学教育の一般的基礎的事項についての素養を確かめる問題。
- 5 美術領域志願者で制作活動をしている場合は、口述試験の際に作品又はその写真資料等を持参すること。

音楽領域学力試験（英語免除措置者、現職教員等選抜）について

別表2

| 試験科目・実技 | | 試験時間 |
|---------|--|--|
| 基礎科目 | 音楽科教育 | 10：15～11：00 |
| 専門科目 | 以下7科目から1つ選択 (1) 音楽科教育学 (2) 音楽学 (3) 作曲 (4) 作曲理論 (5) 器楽A（ピアノ） (6) 器楽B（管楽器） (7) 声楽 | (1)(2)(3)(4) 試験時間 11：40～12：30 (5)(6)(7) 11：50より試験番号順に行う (試験開始まで練習可能) ※科目によって試験時間が前後する可能性がある |
| 口述試験 | | 13：30～ |

試験内容の詳細

| 試験科目 | 試験内容 | |
|------|--------------|--|
| 基礎科目 | 音楽科教育 | 音楽教育に関する基礎的・一般的な内容 |
| 専門科目 | (1) 音楽科教育学 | 音楽教育に関する専門的内容 |
| | (2) 音楽学 | 音楽学に関する内容 |
| | (3) 作曲 | 作品の提出と和声（バス課題およびソプラノ課題） ※P5を参照のこと |
| | (4) 作曲理論 | 和声（バス課題）および理論に関する内容 |
| | (5) 器楽A（ピアノ） | 任意の独奏曲（複数曲も可）を暗譜演奏のこと。 試験時間は20分以内とし、途中で打ち切ることもある。 |
| | (6) 器楽B（管楽器） | 任意の管楽器の独奏曲（協奏曲を含む）を暗譜演奏のこと。 試験時間は10分以内とし、途中で打ち切ることもある。 伴奏者が必要な曲の場合は、各自同伴すること。 演奏曲のソロパートの楽譜（コピー可）を出願時に提出のこと。 |
| 専門科目 | (7) 声楽 | 任意の独唱曲を暗譜演奏のこと。 試験時間は10分以内とし、途中で打ち切ることもある。 伴奏者は各自同伴すること。 演奏曲の楽譜（コピー可）を出願時に提出のこと。 |

C入試（派遣・推薦教員選抜用）

| 専 攻 | コ ース | 試 験 科 目 | |
|--------|----------|----------|---|
| | | 筆 記 試 験 | 口 述 試 験 |
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 必須科目 小論文 | |
| 心理発達支援 | 特別支援教育 | — | |
| 総合教科教育 | 言語社会 | — | |
| | サイエンス | — | |
| | 芸術身体表現 | — | |
| | カリキュラム開発 | — | |
| | | | 各コース・領域ごとに志望理由、研究計画、専門分野における経験、知識、適性などについて問う。 |

(3) B入試（現職教員等選抜）及びC入試（派遣・推薦教員選抜）について

B入試（現職教員等選抜）又はC入試（派遣・推薦教員選抜）を希望する者は、「教育実践論文・研究業績等報告書」に記載した教育実績論文・記録又は各専門分野に関わる論文・研究報告等の主要なもの（原本又は写し）5点以内を提出すること。

提出の対象となるものは次のとおりとする。

- ① 研究報告（地区研究会、県・文部科学省等の指定研究発表会、小・中・高の教科等研究会での研究報告）
- ② 著書、論文（学会誌、研究機関等の研究紀要、その他雑誌等に掲載された論文）
- ③ 翻訳、辞書、事典類の項目執筆
- ④ その他教育実践又は研究の成果を示す記録、資料等

6 配 点

(1) A入試（一般選抜）

| 専攻 | コース | 試 験 科 目 | | | | 計 | |
|--------|----------|-----------|-----|----------------|------|-----|-----|
| | | 筆 記 試 験 等 | | | 選択科目 | | |
| | | 必 須 科 目 | 専門 | 英語 | | | |
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 100 | 100 | — | 100 | 100 | 400 |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 200 | 100 | — | — | 100 | 400 |
| | 学校心理学 | 200 | 100 | — | — | 100 | 400 |
| | 特別支援教育 | 100 | 100 | — | 100 | 100 | 400 |
| 必須科目 | | 選択科目 | | | | | |
| | | 英語 | 小論文 | 基礎科目 | 専門科目 | | |
| 総合教科教育 | 言語社会 | — | 100 | 125 (内英語50) | 75 | 100 | 400 |
| | サイエンス | — | 100 | 125 (内英語50) | 75 | 100 | 400 |
| | 芸術身体表現 | — | 100 | 100 (内英語50) | 100 | 100 | 400 |
| | カリキュラム開発 | 50 | 100 | 150 | — | 100 | 400 |

(注) 外国人留学生においては、英語に代えて日本語の試験を行う。

(2) B入試（現職教員等選抜）

| 専攻 | コース | 試験科目 | | | | 計 | |
|--------|----------|-------|-----|------|---------|-----|-----|
| | | 筆記試験等 | | 選択科目 | 教育実践論文等 | | |
| | | 必須科目 | 小論文 | | | | |
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | 100 | 100 | 100 | — | 100 | 400 |
| 心理発達支援 | 学校心理学 | 200 | 100 | — | — | 100 | 400 |
| | 特別支援教育 | 100 | 50 | 100 | 50 | 100 | 400 |
| | | 必須科目 | | | | | |
| | | 小論文 | | | | | |
| 総合教科教育 | 言語社会 | 100 | 150 | 50 | 100 | 400 | |
| | サイエンス | 100 | 150 | 50 | 100 | 400 | |
| | 芸術身体表現 | 100 | 150 | 50 | 100 | 400 | |
| | カリキュラム開発 | 100 | 150 | 50 | 100 | 400 | |

(3) C入試（派遣・推薦教員選抜）

| 専攻 | コース | 試験科目 | | | | 計 | |
|--------|----------|-------|-----|------|---------|-----|-----|
| | | 筆記試験等 | | 選択科目 | 教育実践論文等 | | |
| | | 必須科目 | 小論文 | | | | |
| 教職実践開発 | 教育実践開発 | — | 100 | — | 200 | 100 | 400 |
| 心理発達支援 | 特別支援教育 | — | — | — | 300 | 100 | 400 |
| | | 必須科目 | | | | | |
| | | 小論文 | | | | | |
| 総合教科教育 | 言語社会 | — | — | 300 | 100 | 400 | |
| | サイエンス | — | — | 300 | 100 | 400 | |
| | 芸術身体表現 | — | — | 300 | 100 | 400 | |
| | カリキュラム開発 | — | — | 300 | 100 | 400 | |

7 入学者選抜試験の合否判定における欠格基準

6に示してある「配点」表について、各試験科目の得点が、1科目でも満点の30パーセント未満の受験者は、不合格とする。

8 合格者発表

- (1) 日 時 令和2年10月9日（金）12時
- (2) 発表方法 岐阜大学ホームページ上 (<http://www.gifu-u.ac.jp>) に合格者の受験番号を掲載する。
掲載期間は合格発表日から1週間とする。
合格通知書は郵送します。
なお、不合格者には結果通知を郵送しません。また、電話等による照会には一切応じません。

9 入学手続

令和3年2月17日（水）予定

令和3年2月初旬に「入学手続案内」を送付する。

この期間に入学手続をしなかった者は、本研究科への入学の意志がなく、入学を辞退したものとみなす。

10 入學料及び授業料（令和2年度入学生の例）

入 學 料 282,000円

授業料（前期分） 267,900円（年額535,800円）

（注）授業料納付については、希望により前期分の納付の際に後期分も併せて納付することができる。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用される。

11 入試結果の情報開示の案内

(1) 開示内容

受験者本人からの請求に基づき、本人の得点（合否判定に使用した合計点）を開示します。また、合格者の試験成績（最高点、平均点、最低点）を併せて開示します。ただし、小論文、口述試験は開示しません。コースごとの合格者が4人以下の場合は試験の成績の開示はしません。また、合格者が10人以下の場合は、最低点を開示しません。

(2) 開示の請求方法

- | | |
|----------|--|
| a 請求できる者 | 本人に限ります。 |
| b 請求期間 | 令和2年11月30日（月）から12月18日（金） (請求用紙の配布も同日以降とします。) |
| c 請求方法 | 請求先（入試課）の窓口に持ち込む（土日祝日は除く。）か郵送してください。 |
| d 請求先 | 〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学学務部入試課 |
| e 必要書類 | ・岐阜大学入試情報開示請求書 ・岐阜大学受験票（コピー不可、開示の際にお返しします。） ・返信用封筒（開示通知書送付用） 長形3号封筒に本人の郵便番号、住所、氏名を明記の上、※404円分の切手（簡易書留料金）を貼付してください。 開示請求書用紙の入手 ・次のいずれかの方法で入手できます。 ①入試課の窓口で受け取る。（9時から17時まで）（土日祝日は除く。） ②郵便で請求する。 返信用封筒（長形3号の封筒に※84円切手貼付）を「請求先」あてに送ってください。 ※郵便料金の改定があった場合は、改定後の郵便料金分の切手を貼付してください。 |
| f 開示方法 | 本人に開示決定通知書を郵送します。 請求受付後、開示までに約1か月を要しますので、あらかじめ了承願います。 |

12 個人情報の取り扱いについて

提出された志願票等に記載された氏名、性別、生年月日、住所、電話番号等の個人情報は、入試情報処理システムに登録されますが、本学は、志願票等及び登録された個人情報を、責任をもって管理・保管します。

そして入学試験業務終了後は、この個人情報を、次のいずれかに該当する場合を除いて利用することはなく、また、第三者に開示することもありません。なお、第三者とは、本学入試業務担当者のうち、個人情報に接する必要がある者以外の者とします。

- (1) 合格者について、入学手続きに必要なデータを使用する場合
- (2) 入学者について、学生証の作成、カリキュラム登録、成績管理等、本人が大学生活をする上で必要な事務処理にデータを利用する場合
- (3) 入学者選抜に係る統計・調査・分析のために使用する場合（ただし、この統計・調査・分析に従事する者は特定の者とし、公表する場合は個人識別ができない状態で行います。）
- (4) 本人の同意が得られた場合
- (5) 法令等により開示が求められた場合

13 障害等のある者の出願に当たっての事前相談

本学では、障害等のある志願者が、受験上不利となることがないよう必要な配慮を行っており、そのための相談を次のとおり受け付けています。

相談の内容によっては対応に時間を要することがありますので、相談の期限にかかわらず、できるだけ早く相談してください。

また、入学後の修学相談の希望がある方は、お問い合わせください。

(1) 相談の期限

令和2年8月21日（金）まで

注：日常生活においては、ごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場設定や他の配慮との関係から受験上の配慮として申請が必要です。

なお、この相談は、障害等のある志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験に関し、よりよい方法及び在り方を模索するためのものであり、本相談により入試結果の判定において不利になることはありません。

(2) 相談の方法

本学所定の用紙（障害者等受験上の配慮申請書）に医師の診断書又は身体障害者手帳（写）を添付し、教育学部学務係に提出してください。

また、本学が必要とする場合には、志願者又は関係者との面談等を行うことがあります。

(3) 本学所定の用紙の請求方法

郵便で障害者等受験上の配慮申請書の用紙を請求する場合は、封筒の表に「障害者等受験上の配慮申請書請求」と朱書きし、84円分の切手を貼った返信用封筒（長形3号封筒（縦23.5cm×横12.0cm））を同封し、教育学部学務係に送付してください。

なお、用紙は、岐阜大学ホームページからダウンロードすることもできます。

(4) 相談の期限後に生じた不慮の事故等による場合

相談の期限後に不慮の事故等により身体に障害を有することとなった場合は、至急教育学部学務係へ問い合わせてください。

14 夜間・遠隔教育における教育方法の特例措置について

現職教員等に対して、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例及び同設置基準第15条（大学設置基準第25条等準用）に定める授業の方法の趣旨に基づき、現職教員等が大学院教育を受ける機会を広げるため、教育方法の特例を実施する。

各コース等の開講と遠隔教育の方法は次のとおりである。

| 専 攻 | コ ー ス | 昼 | 夜 |
|-------------|-----------------|---|---|
| 教 職 実 践 開 発 | 学校 管理 職 養 成 | ○ | — |
| | 教 育 実 践 開 発 | ○ | ○ |
| 心 理 発 達 支 援 | 臨 床 心 理 学 | ○ | — |
| | 学 校 心 理 学 | ○ | — |
| | 特 別 支 援 教 育 | ○ | ○ |
| 総 合 教 科 教 育 | 言 語 社 会 | ○ | — |
| | サ イ エ ン ス | ○ | — |
| | 芸 術 身 体 表 現 | ○ | — |
| | カ リ キ ュ ラ ム 開 発 | — | ○ |

注) 遠隔教育は、下記のコースにおいて実施する。受講場所は下表参照。

- ・カリキュラム開発コース
- ・教育実践開発コース（希望者）

| 遠隔教育 | 開講授業 | 受 講 で き る 教 室 等 |
|----------------------------------|------|--|
| サテライトまたは インターネット型 のいずれかを選択 | 夜 間 | ・岐阜大学教室 ・サテライト教室：熊本市 ・インターネット接続の自宅等：インターネット接続された 機器等を備えた自宅等 |

注) 教育実践開発コースは、インターネット型のみで授業を行っており、インターネット接続の自宅等における受講のみ実施する。

(1) 開講形態及び時間

① 夜間授業の開講

| 第 6 時限 | 第 7 時限 |
|-------------------------|-------------------------|
| 18：10～19：40 (夜間第1時限) | 19：50～21：20 (夜間第2時限) |

夜間授業が主となる現職教員等に対しては、岐阜大学、サテライト教室及びインターネット接続の自宅等において受講することができる。

② 昼間授業の開講

| 第 1 時限 | 第 2 時限 | 第 3 時限 | 第 4 時限 | 第 5 時限 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 8：45～10：15 | 10：30～12：00 | 13：00～14：30 | 14：45～16：15 | 16：30～18：00 |

勤務の都合で昼間授業を受講することもできるが、岐阜大学においてのみの開講である。

③ 土・日曜日及び夏季休業等開講

一部の授業科目を土・日曜日、夏季休業中に遠隔授業で開講する。また大学へ通学可能な夏季休業時等は、大学へ行き受講することもできる。

(2) 遠隔教育の方法

岐阜大学とサテライト教室及びインターネット接続された機器等を備えた自宅等とをテレビ会議システムやインターネット等による双方向通信で授業を行う。

注) 夜間・遠隔授業の標準的な時間割・開講曜日

- ・カリキュラム開発コース

1 カリキュラム開発コースの専門科目は、週1日の6・7時限に夜間・遠隔授業により開講することを標準とする。(時間割にて確認する)

また、これ以外に下記2～4の方法により科目を開講する。

2 土曜日、日曜日及び夏季休業中等の昼間に遠隔の集中講義を開講する。

3 夏季休業中等に岐阜大学教室においてのみ開講する集中講義がある。この履修に際しては、岐阜大学に通学する必要がある。

4 学位論文の審査及び最終試験は岐阜大学教室において実施する。

5 授業時間割等は変更する場合がある。この場合は教育学研究科掲示板等で通知する。

(遠隔教育履修者には教育支援システムにて通知する。)

- ・教育実践開発コース

1 教育実践開発コースの共通科目、開発実践基礎、開発実践報告Ⅰ・Ⅱは、月・水・金曜日の6・7時限に夜間・遠隔授業により開講する。(時間割にて確認する)

また、これ以外に下記2～3の方法により科目を開講する。

2 夏季休業中等に岐阜大学において集中講義を開講する。この履修に関しては、岐阜大学に通学する必要がある。

3 開発実践報告論文の審査及び最終試験は岐阜大学教室において実施する。

4 授業時間割等は変更する場合がある。この場合は教育学研究科掲示板等で通知する。

(遠隔教育履修者には教育支援システムにて通知する。)

15 長期履修学生制度について

大学院設置基準の一部改正（平成14年3月28日施行）により、学生が職業を有しているなどの事情により、研究科の標準修業年限の2年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨申し出たときは、その計画的な履修を認めることが可能となることになり、本学でもこの制度を導入している。

なお、通常、授業料は年額535,800円で、標準修業年限で修了する場合には、2年間分（1,071,600円）が必要となるが、前述の履修方法が認められた学生の授業料の年額は、2年間分の授業料（1,071,600円）を計画的に履修することを認められた一定の期間の年数で除した額となる。

16 修業年限短縮の特例について

岐阜大学大学院学則の規定に基づき、所定の単位を修得し、学位を授与されるための研究計画等において特に優れた業績が認められる者の修業年限は、標準修業年限2年のところ、1年又は1年6月に短縮することができる。（教職実践開発専攻を除く）

17 大学院学生の学部開講科目の受講について

大学院学生は申合せに基づく承認を得て、学部講義等を受講することができる。

18 入試統計

| 専攻 | コース 領域 | 平成28年度一次募集 | | | | | | | | 平成28年度二次募集 | | | | | | | | 入学 者数 合計 |
|----------|-----------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---|----------------|
| | | A入試 | | | | B入試 | | | | A入試 | | | | B入試 | | | | |
| 募集 人員 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | | |
| | 学校改善 | 3 | 3 | 3 | 2 | 5 | 5 | 5 | 5 | — | — | — | — | — | — | — | — | 7 |
| 教職実践開発 | 授業開発 | 7 | 6 | 6 | 3 | 6 | 6 | 5 | 5 | — | — | — | — | — | — | — | — | 8 |
| | 教育臨床実践 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 特別支援学校 | 2 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 臨床心理学 | 26 | 23 | 8 | 8 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 8 |
| 心理発達支援 | 学校心理学 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 |
| | 特別支援教育 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 国語 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 |
| 総合教科教育 | 社会 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 |
| | 英語 | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 |
| | 数学 | 9 | 8 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 |
| | 理科 | 15 | 15 | 15 | 14 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 14 |
| | 技術 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 家政 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 音楽 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 美術 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 |
| | 保健体育 | 9 | 9 | 9 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | — | — | — | — | 9 |
| | カリキュラム開発 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 合 計 | | 69 | 90 | 85 | 65 | 58 | 15 | 15 | 14 | 14 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 74 |

| 専攻 | コース 領域 | 平成29年度一次募集 | | | | | | | | 平成29年度二次募集 | | | | | | | | 入学 者数 合計 | | |
|--------|-----------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------------|----------|----|
| | | 募集 人員 | A入試 | | | | B入試 | | | | 募集 人員 | A入試 | | | | B入試 | | | | |
| | | | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | |
| 教職実践開発 | 学校管理養成 | 約10 | — | — | — | — | — | — | — | — | 約15 | — | — | — | — | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| | 教育実践開発 | | 9 | 9 | 8 | 7 | 8 | 8 | 7 | 7 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 14 |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 10 | 24 | 20 | 8 | 4 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 4 | |
| | 学校心理学 | | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | — | — | — | — | — | — | — | 2 | |
| | 特別支援教育 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | | — | — | — | — | — | — | — | 1 | |
| | 国語 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 2 | |
| 総合教科教育 | 社会 | 34 | 4 | 4 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 若干人 | — | — | — | — | — | — | — | 2 | |
| | 英語 | | 3 | 3 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 2 | |
| | 数学 | | 7 | 7 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 6 | |
| | 理科 | | 5 | 5 | 5 | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | — | 7 | |
| | 技術 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 1 | |
| | 家政 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 2 | |
| | 音楽 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 2 | |
| | 美術 | | 4 | 4 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 4 | |
| | 保健体育 | | 7 | 7 | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | 7 | |
| | カリキュラム開発 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | |
| 合 計 | | 54 | 73 | 69 | 54 | 46 | 11 | 11 | 10 | 10 | 15 | 3 | 2 | 2 | 2 | 15 | 15 | 15 | 73 | |

| 専攻 | コース 領域 | 平成30年度一次募集 | | | | | | | | 平成30年度二次募集 | | | | | | | | 入学 者数 合計 | | |
|--------|-----------|------------|------|------|------|------|------|------|------|------------|----------|------|------|------|------|------|------|----------------|------|----|
| | | 募集 人員 | A入試 | | | | B入試 | | | | 募集 人員 | A入試 | | | | B入試 | | | | |
| | | | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | |
| 教職実践開発 | 学校管理職養成 | 約10 | — | — | — | — | — | — | — | — | 約15 | — | — | — | — | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 |
| | 教育実践開発 | | 4 | 4 | 4 | 2 | 6 | 6 | 6 | 6 | | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 10 |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 10 | 21 | 20 | 9 | 3 | — | — | — | — | — | 1 | 1 | 0 | 0 | — | — | — | — | 3 |
| | 学校心理学 | | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |
| | 特別支援教育 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| 総合教科教育 | 国語 | 34 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 若干人 | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 |
| | 社会 | | 6 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |
| | 英語 | | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |
| | 数学 | | 5 | 5 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 |
| | 理科 | | 7 | 7 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 |
| | 技術 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 家政 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 1 | 1 | 1 | 1 | — | — | — | — | 1 |
| | 音楽 | | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 美術 | | 4 | 4 | 4 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 4 |
| | 保健体育 | | 8 | 8 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 |
| | カリキュラム開発 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 5 |
| 合 計 | | 54 | 65 | 62 | 46 | 31 | 8 | 8 | 8 | 8 | 15 | 5 | 5 | 3 | 2 | 16 | 16 | 16 | 16 | 57 |

| 専攻 | コース 領域 | 平成31年度一次募集 | | | | | | | | 平成31年度二次募集 | | | | | | | | 入学 者数 合計 | | | | | | |
|--------|-----------|------------|------|------|------|------|------|------|------|------------|------|------|------|------|----------|------|------|----------------|------|------|------|------|------|----|
| | | 募集 人数 | A入試 | | | | B入試 | | | | C入試 | | | | 募集 人数 | A入試 | | | | B入試 | | | | |
| | | | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | |
| 教職実践開発 | 学校管理職養成 | 約10 | — | — | — | — | — | — | — | — | 約15 | — | — | — | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 |
| | 教育実践開発 | | 12 | 11 | 11 | 7 | 3 | 3 | 3 | 3 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 11 |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 10 | 27 | 22 | 13 | 8 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 8 |
| | 学校心理学 | | 3 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 |
| | 特別支援教育 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | 4 |
| 総合教科教育 | 国語 | 34 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 若干名 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 3 |
| | 社会 | | 5 | 5 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 4 |
| | 英語 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 |
| | 数学 | | 6 | 5 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 5 |
| | 理科 | | 9 | 9 | 8 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 |
| | 技術 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | 0 |
| | 家政 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 |
| | 音楽 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | — | — | — | — | 0 |
| | 美術 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 2 |
| | 保健体育 | | 7 | 7 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 6 |
| | カリキュラム開発 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 | 3 | 3 | — | — | — | — | 8 |
| 合 計 | | 54 | 80 | 71 | 60 | 48 | 6 | 6 | 6 | 6 | 15 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 15 | 15 | 15 | 15 | 75 |

| 専攻 | コース 領域 | 令和2年度一次募集 | | | | | | | | | | 令和2年度二次募集 | | | | | | | | | | 入学 者数 合計 | | | | | |
|--------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------------|----|----|----|----|----|
| | | A入試 | | | | | B入試 | | | | | C入試 | | | | | A入試 | | | | | B入試 | | | | | |
| | | 募集 人數 | 志願 者數 | 受験 者數 | 合格 者數 | 入学 者數 | 志願 者數 | 受験 者數 | 合格 者數 | 入学 者數 | 志願 者數 | 受験 者數 | 合格 者數 | 入学 者數 | 志願 者數 | 受験 者數 | 合格 者數 | 入学 者數 | 志願 者數 | 受験 者數 | 合格 者數 | 入学 者數 | | | | | |
| 教職実践開発 | 学校管理職 | 約10 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 約15 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 |
| | 教育実践開発 | | 10 | 10 | 10 | 7 | 1 | 1 | 0 | 0 | 6 | 6 | 6 | 6 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| 心理発達支援 | 臨床心理学 | 10 | 20 | 19 | 13 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 学校心理学 | | 4 | 4 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 特別支援教育 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 総合教科教育 | 国語 | 34 | 2 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 若干名 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 社会 | | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 英語 | | 3 | 3 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | |
| | 数学 | | 6 | 6 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | |
| | 理科 | | 5 | 5 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | |
| | 技術術 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | 家政 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | |
| | 音楽 | | 3 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | 美術 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | |
| | 保健体育 | | 10 | 10 | 10 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 | |
| | カリキュラム | | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 4 | 4 | 0 | 0 | 6 | |
| 合 計 | | 54 | 71 | 69 | 58 | 41 | 3 | 3 | 2 | 2 | 7 | 7 | 7 | 7 | 15 | 3 | 3 | 2 | 2 | 5 | 5 | 5 | 5 | 14 | 14 | 14 | 71 |

(教育学研究科の入学定員：69人)

※平成30年度入試までは、岐阜県教育委員会等からの派遣・推薦教員に対する入学者選抜はB入試の一部として実施していたため、C入試の区分はありません。

外国人留学生（教育学研究科）

| 入試年度 | 志願 者数 | 受験 者数 | 合格 者数 | 入学 者数 | 備 考 |
|--------|----------|----------|----------|----------|---------------------------|
| 平成28年度 | 1 | 1 | 1 | 1 | 教職実践開発(1) |
| 平成29年度 | 3 | 3 | 3 | 3 | 国語領域(1), 社会領域(1), 家政領域(1) |
| 平成30年度 | 1 | 1 | 1 | 1 | 国語領域(1) |
| 平成31年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 令和2年度 | 3 | 3 | 0 | 0 | |

19 大規模災害により被災した岐阜大学入学志願者の検定料の免除について

岐阜大学では大規模自然災害により被害に遭われた方に対して検定料免除の特別措置を行います。詳細は岐阜大学のホームページ <http://www.gifu-u.ac.jp/> を参照してください。

20 そ の 他

- (1) 出願書類を郵送で請求する場合は、返信用封筒（角形2号・縦33.2cm×横24.0cm）に250円分の切手を貼り、住所・氏名・郵便番号を記入し、これを折りたたんで「教育学研究科募集要項請求」と朱書きした定形の封筒に入れ、下記へ請求すること。
- (2) 過去の入学試験における学力試験問題は、本学教育学部学務係にて閲覧することができる。
- (3) 出願書類の請求及び学生募集に関する問合せは、下記あてに行うこと。

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学教育学部学務係 電話 058-293-2206・2209

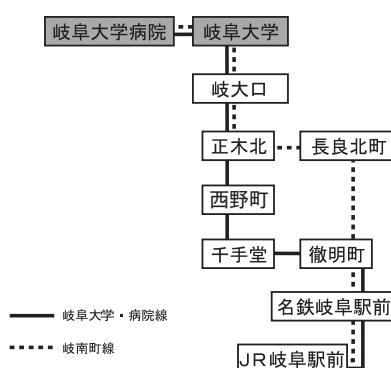
(4) 本学への交通機関（令和2年5月現在）

| 行 先 | 路 線 名 | J R 岐 阜 駅 か ら | 名 鉄 岐 阜 駅 か ら |
|---------|----------|-------------------------------|---|
| 岐 阜 大 学 | 岐阜大学・病院線 | J R 岐阜駅前（北口） バスターーミナル9番乗り場 | 名鉄岐阜バスターーミナルE番乗り場 名鉄岐阜駅前（北進）4, 5番乗り場 |
| 岐阜大学病院 | | | |

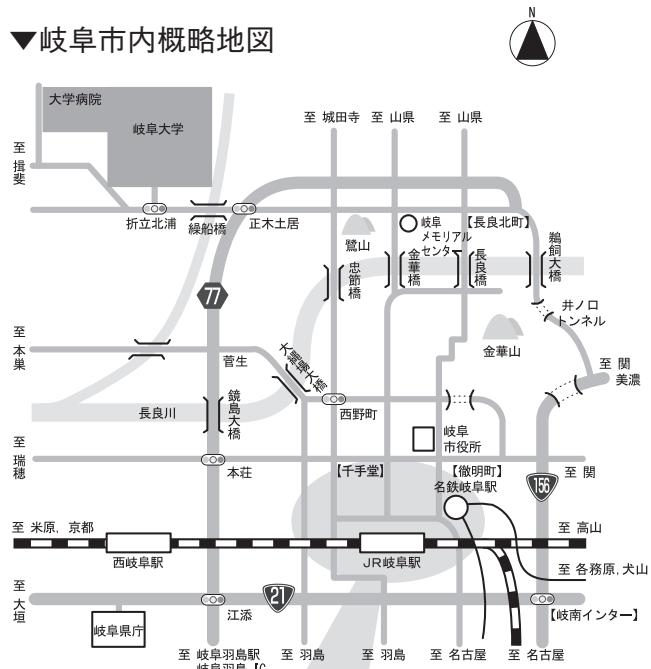
- 主な路線のみ掲載しています。その他の路線については岐阜バスのホームページ等で確認してください。
- 所要時間は約30分ですが、市内の交通事情により大幅にこれを上回ることがあるので注意してください。

岐阜市内地図（関連分）

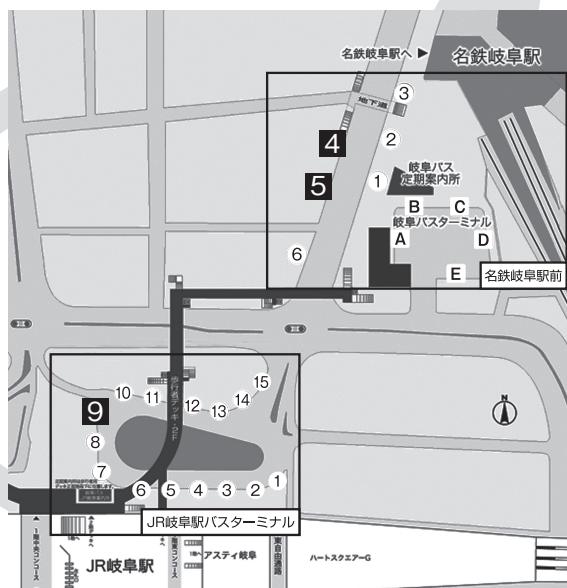
▼バス路線図(略図)



▼岐阜市内概略地図



▼JR岐阜駅前・名鉄岐阜駅前周辺バスのりば



教育学研究科案内

I 研究科の履修方法

指導教員の指導に基づき、下記の履修基準に従い、教職実践開発専攻にあっては46単位以上を修得することとし、心理発達支援専攻、総合教科教育専攻にあっては30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえで修士論文（教職実践開発専攻にあっては開発実践報告）を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

教職実践開発専攻にあっては教職修士（専門職）の学位を、心理発達支援専攻、総合教科教育専攻にあっては修士（教育学）の学位を授与する。

修了に必要な最低修得単位数

| 科目区分 | 専攻 コース | 教職実践開発専攻 | |
|--------|---------------|------------|-----------|
| | | 学校管理職養成コース | 教育実践開発コース |
| 選択必修科目 | 専攻共通科目 | 14単位 | 20単位 |
| | 開発実践報告に関する科目 | 6単位 | |
| | 学校管理職臨床実習 | 10単位 | |
| | 特別支援学校管理職臨床実習 | | |
| | 学校教育臨床実習 | 10単位 | |
| 選択科目 | 特別支援学校教育臨床実習 | | |
| | 学校管理職養成に関する科目 | 12単位 | |
| | 教育実践開発に関する科目 | | 6単位 |
| 自由選択科目 | | 4単位 | |
| 合 計 | | 46単位 | 46単位 |

| 科目区分 | 専攻・コース | 心理発達支援専攻 | | |
|------|---------------|----------|----------|-----------|
| | | 臨床心理学コース | 学校心理学コース | 特別支援教育コース |
| 必修科目 | 研究科共通科目（選択必修） | 4単位 | | |
| | 課題研究 | | 6単位 | |
| 選択科目 | 臨床心理学に関する科目 | 16単位 | | |
| | 学校心理学に関する科目 | | 16単位 | |
| | 特別支援教育に関する科目 | | | |
| | 自由選択科目 | 4単位 | | |
| 合 計 | | 30単位 | 30単位 | 30単位 |

| 科目区分 | 専攻・コース | 総合教科教育専攻 | | | |
|------|---------------|----------|----------|-----------|-------------|
| | | 言語社会コース | サイエンスコース | 芸術身体表現コース | カリキュラム開発コース |
| 必修科目 | 研究科共通科目（選択必修） | 4単位 | | | |
| | 課題研究 | | 6単位 | | |
| 選択科目 | 専攻共通科目（選択必修） | 4単位 | | | 6単位 |
| | コース専門科目 | 12単位 | 12単位 | 12単位 | 10単位 |
| 合 計 | 自由選択科目 | 4単位 | | | |
| | | 30単位 | 30単位 | 30単位 | 30単位 |

II 研究科の授業科目

開講科目及び科目の概要は、教育学研究科ホームページに掲載しております。
遠隔授業により開講する授業科目については、下記Webページを参照してください。

岐阜大学教育学研究科総合教科教育専攻カリキュラム開発コース

<http://www.crdc.gifu-u.ac.jp/teleteaching/curriculum/Pages/default.aspx>

岐阜大学教育学研究科教職実践開発専攻教育実践開発コース

http://www.ed.gifu-u.ac.jp/kyoshoku/1_curriculum.html

III 修士論文等題目例

III-1 開発実践報告題目（例）

教職実践開発専攻

| 開 発 実 践 報 告 題 目 |
|--|
| 高等学校における対話を軸とした協働的な組織の開発 -特色ある教育課程の編成を通して- |
| マネジメント空間認識の拡張による教育の質の向上 -学校事務職員のリーダーシップを活かした、教育活動と経営資源をつなぐマネジメントモデルの開発- |
| 小規模化状況における若手教員の資質能力育成のための校内研修体制の開発 |
| 学校・学級・児童へのポジティブ介入・支援システムの導入による学校適応の向上 -児童の社会性発達と教師の指導力向上を基盤とした開発実践- |
| 学校行事における自己肯定感を高める指導のあり方 |
| 小学校における管理職中心に推進するインクルーシブ教育モデルの開発 |
| 特別支援学校高等部単独校のスクールクラスター・学校プラットフォームに着目した機能強化に関する研究 |

III-2 修士論文題目（例）

1 心理発達支援専攻

| コ ー ス | 論 文 題 目 |
|-----------|--|
| 臨床心理学コース | 広汎性発達障害児における表情認知 抑うつと自己複雑性 他者による心理的支えが自己受容に及ぼす影響—信頼感との関連性の視点から— 大学生が認知する父母間と親子間における関係性が生活感情に及ぼす影響 自尊感情の変動性が大学生の被害妄想的観念に及ぼす影響 広汎性発達障害児における感情認知 学業場面でのいいわけが無力感に及ぼす影響 |
| 学校心理学コース | 乳幼児を持つ母親の育児不安と祖父母の育児支援との関わり 自閉症幼児における模倣認知と自他理解の関連 |
| 特別支援教育コース | 特別支援学校における総合的学習の時間に関する研究 発達障害児における読みの指導に関する研究 成人吃音者における音読時の眼球運動に関する研究 特別支援学校（知的障害）における知的障害者の雇用・就労支援の在り方に関する研究 知的障害児特別支援学校小学部における保護者との連携・協働に関する研究 |

2 総合教科教育専攻

| コース | 領 域 | 論 文 題 目 |
|---------------------------------|---------|--|
| 言 語 社 会 コ ー ス | 国 語 領 域 | 説明的文章の指導の研究 樋口一葉研究 現代作文教育研究 平家物語の研究 国語科における音声言語能力の育成に関する研究 物語教材の読みの指導の研究 「桃花源記」研究 |
| | | ミャンマーと日本における社会科教育の比較考察とそれに基づくカリキュラム試案 高校生の世界認識の現状 －手描き世界地図調査・世界各国の既得知識調査より－ 戦後日本中世史研究のあゆみ 高校教育における日本史認識と学習指導要領の変遷 －評価と関連づけて－ 要介護高齢者の生活支援研究 |
| | | 地域における文化財・文化遺産の活用 －埋蔵文化財を中心として－ 日本近代化への視点 －近世とアジアとの関係－ 小学校社会科における地名教育とその効果 |
| | | 中学校地理的分野における事例学習としての地域選択 小中学校における体験活動の発展と意義 －岐阜県を中心に－ |
| | | ALTs in the Japanese Classroom as Perceived by Prospective English Teachers in Japan 英語のリスニングにおける継時処理スキルに関する研究 Research on Tasks in Task-based Language Teaching The Effective Teaching Methods in English Language Education Task-based Language Teaching and Grammatical Accuracy 適切なコミュニケーションを目指した言語指導と文法 学習英文法における原型不定詞の扱われ方について |
| | 英 語 領 域 | Investigating the Role of ‘コミュニケーション英語 I’ in High School English Programs through Textbook Analysis 文化的背景と言語表現の違いについて：日本語・中国語・英語の比較分析 中学校英語教科書に見る「メタファー」 Current Trends of English Teaching Approaches in Elementary and Secondary Schools in Japan 学習英文法における原形不定詞の扱われ方について —help 構文及び使役・知覚構文における to の出没の観点から— <i>The Great Gatsby</i> における語りの特性 |

| | |
|--------------------------------------|---|
| サ イ エ ン ス コ リ ス | <p>数学領域</p> <p>「数と計算」領域における基礎的・基本的な内容の習熟と活用に関する考察 算数・数学教育における和算の活用 算数的・数学的活動の有効性に関する実践と提案 図形領域における教材の提案とその実践 中学校数学に関わる数学的内容の研究と教材開発 規則性に基づいた事象の理解をうながす教材開発 非線形偏微分方程式の近似解法の理論とその応用 「長さ・面積・体積」に関わる教材開発とその実践 身近な題材を用いた高等学校数学の教材研究とその実践 高等学校における数学的活動に関する一考察 関数空間及びその上の作用素についての研究 数理的処理の良さを体感できる授業を目指して</p> |
| イ エ ン ス コ リ ス | <p>A review of QED 重ストレンジネス核の研究 量子力学における観測問題について 理科教育における子どもの動機づけに関する研究 高校物理ⅠBの光波単元における生徒の創造性を支援する授業方法の研究 -生きる力と問題解決能力をいかに身につけさせるか- ジアザシクロヘキサン骨格を有するネオニコチノイド系化合物の合成と昆虫神経活性 薬理活性物質の合成および構造と活性の研究 β-アルコキシアルケニルリチウムを用いた、アルデヒドおよびケトンのオレフィン化反応に関する研究 岐阜県の水草のフローラ リンゴのS遺伝子型と自家不和合性 胎生硬骨魚カダヤシの卵黄形成と卵黄蛋白に関する研究 Cardiocondyla 属アリ類における繁殖生態学的研究 植物バイオテクノロジーの教材化 原生代後期の縞状炭酸塩岩に見られるカルサイト・ドロマイトイクリル 軟体動物硬組織の成長縞観察手法の検討とその応用 地下水ラドン濃度変化の研究</p> |
| 技 術 領 域 | <p>中学校技術・家庭科における生活とのかかわりに関する研究 プログラム言語と計測・制御の教材開発と実践に関する研究 中学校技術・家庭科における木によるものづくり教材の開発 ものづくりと木質材料 エネルギー教育に関する研究 技術教育におけるものづくり教育と発達段階を考慮した課外活動に関する研究 中学校技術・家庭科における創造性と情報教育に関する研究 情報教育における小学校と中学校の関連に関する研究 情報活用能力を到達度目標とした情報教育の教科内容に関する研究 コンピューターを用いた計測・制御学習教材の開発 PC-UNIXを用いたネットワークサーバー構築支援システムの開発とその評価 技術科教育における達成度目標と自己教育力との関連に関する研究 施削加工に関する研究 遺伝的アルゴリズムを用いた画像認識に関する研究 技術科における情報教育のあり方</p> |

| | | |
|-----------|------|---|
| サイエンスコース | 家政領域 | <p>中等教育における被服制作についての考察 －型紙に関する指導内容と活用実態を通して－</p> <p>身近な発酵食品の機能性と微生物との関わりについて</p> <p>起居様式の構造に関する研究</p> <p>中学校・家庭科における環境教育に関する研究</p> <p>ポリオキシエチレン系界面活性剤存在下における陽イオン界面活性剤の髪毛への吸着に関する研究</p> <p>学校における新しい生活指標を用いた新しい消費者教育</p> <p>CADによる試作住宅の設計</p> <p>栄養に関する指導法の開発</p> |
| 芸術身体表現コース | 音楽領域 | <p>豊かな情操を育成するための音楽教育における異文化理解からのアプローチ －「諸民族の音楽」の学習を通して多元的価値観を形成することを中心に－</p> <p>幼稚園教育における音楽のあり方に関する一考察 －調査を通してみた自由・設定保育の間における音楽のあり方－</p> <p>小学校における「共に学ぶ」音楽教育に関する一考察 －健常児と障害児による交流授業から－</p> <p>ジャズを用いた音楽科教育の可能性について －日本の中学校を中心にして－</p> <p>「つくって表現する」活動における評価のあり方についての一考察</p> <p>中学校合唱部における発声指導について －統一された音色と響きを目指した個々の声作り－</p> <p>中国と日本の小学校音楽カリキュラムにおける鑑賞学習の比較</p> <p>児童の音楽的発達にもとづく音楽科カリキュラム構築の試み －「つくって表現する」学習を中心に－</p> <p>音楽表現活動における音楽的思考の発展に関する一考察 －「楽譜への書き込み」と「指揮的表現」に着目して－</p> <p>日本人の手による明治・大正時代のピアノ独奏曲について</p> <p>フルート演奏におけるハーモニクス奏法の有効性</p> <p>歌唱における発音について －イタリア語、ドイツ語、日本語による声楽曲を中心に－</p> <p>シユーベルトの歌曲について －「美しき水車小屋の娘」D.795の作品分析－</p> <p>歌唱教育における情意面に関する研究 －導入時の楽曲提示方法と子どもの興味・関心に注目して－</p> <p>F・ショパン バラード第4番 Op.52の運指法 －弟子や近親者の証言と各版の運指に着目して－</p> |

| | |
|------------------------------|--|
| 芸術身体 表 現 コ ース | <p>障害児における造形活動の機能及び他者関係から捉えた教育方法 木彫表現の研究 －素材・道具・技法と表現の関連性－ 5歳児の造形表現に見られる特性の研究 －幼児の造形表現の意味と個別的な差異の考察－ 塑造におけるテラコッタの可能性 －表面処理からの考察－ アルトゥーロ・マルティーニ研究 中国近代表現主義の絵画に関する一考察 土を用いた造形表現について 和紙を支持体とした油絵技法研究 メディア時代における美術教育のあり方について 素材と空間を生かした造形教材に関する研究</p> |
| 表現 コ ース 保健体育領域 | <p>器械運動における映像情報が技の習得に及ぼす影響 日本と中国におけるバレーボールの歴史的変遷と現状の比較 体育の指導技術に関する研究 －発問の技術について－ 形象による技の認識能力に関する研究 －小学校鉄棒運動の場合－ 剣道強化合宿における抗酸化ビタミン摂取の影響 パワートレーニングがテニスプレーヤーの反応時間に及ぼす影響 女子高校生の骨量とライフスタイルについて 高等学校教科体育の年間計画と生徒の体力との関係に関する研究 小学校における表現運動の実践的研究 －技能に関する評価表の作成と規準達成のための指導の在り方－ 地域スポーツクラブの在り方に関する研究 －岐阜県内の総合型地域スポーツクラブに着目して－</p> |
| カリキュラム開発 コ ース — | <p>STEM 教育を基にした小学校プログラミング教育に関する研究 まちづくりの視点を組み込んだ学校社会科の単元設計に関する研究 －「まちづくり的社会科」の単元設計と授業実践の効果－ 英語教室における学習者特性に応じた教師の指導方略に関する研究 環境の変化とストレスの関係性についての研究 －大学剣道における種々の場面を対象として－ 「マッピング検索法」を活用した対話が学習観に及ぼす影響 英語教師がもつ学力観の評価活動への影響に関する研究 －英語科「読むこと」の教師自作テスト分析と研修プログラムの開発－ 英語多読による学習者の意欲の変化 －新しい学びとしての中学校への多読導入の検証－ ピアノの自律的学習を促進するための“映像”を用いた指導法の開発</p> |

- 授業設計における教師の学習者理解スキーマの特徴と機能に関する実践的研究
—小学校教師の学習者反応予測活動の分析と検証—
- 学校と地域の互恵関係を構築する連携の在り方に関する研究
—岐阜市「地域活動指導員」の現状の分析及び今後の課題と可能性—
- 小学校における命を題材としたトピック型学習テキストの開発
- 大学生の生成的な学びを支援する学習デザイン
- 気づきの類型化と共有化を活用した授業観察力の育成に関する研究
—ものづくりにおける描画法を用いた授業設計—
- 小学校における「情報活用の実践力」の理解を促進する単元設計に関する研究
—「逆向き設計」による汎用的能力の学習指導の実践とその効果—
- 工学系大学生を対象とした就職活動支援プログラムの評価と改善に関する研究
—学科レベルのきめ細やかな支援による学習の効果—
- 中学校数学科授業における交流活動の質的改善に関する実践研究
- 深度情報を用いた空間認識による行動分析システムの開発
- 多元参加型コミュニティ形成のための参加意識に関する研究

IV 教育職員免許状

本研究科で取得可能な免許状の種類は次のとおりである。ただし、専修免許状の資格を得ようとする場合は、取得しようとする専修免許状（中学校及び高等学校教諭専修免許状については、その教科）の一種免許状を有することが必要である。

| 専 攻 | コース・領域 | 取 得 可 能 な 専 修 免 許 状 | |
|----------------------|-------------------------|---------------------|---|
| | | 種 類 | 教科又は特別支援領域 |
| 教開 職発 実專 践攻 | 学校管理職養成コース 教育実践開発コース | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、農業、工業、商業、水産、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教、情報、福祉 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 特別支援学校教諭専修免許状 | 知的障害者、肢体不自由者、病弱者 |
| 心支 理援 發專 達攻 | 臨床心理学コース 学校心理学コース | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、農業、工業、商業、水産、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教、情報、福祉 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 養護教諭専修免許状 | |
| 総教 合育 専攻 | 特別支援教育コース | 特別支援学校教諭専修免許状 | 知的障害者、肢体不自由者、病弱者 |
| | | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 国語 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 国語 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| 言語社会 コ ー ス | 国語領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 国語 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 国語 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 社会領域 | |
| サイエンス コー ツ | 社会領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 社会 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 地理歴史、公民 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 英語領域 | |
| 教科攻 | サイエンス コー ツ | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 英語 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 英語 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 数学領域 | |
| 芸術身体 表現コース | 数学領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 数学 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 数学 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 理科領域 | |
| カリキュラム 開発コース | 理科領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 理科 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 理科 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 技術領域 | |
| カリキュラム 開発コース | 技術領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 技術 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 工業、情報 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 家政領域 | |
| カリキュラム 開発コース | 家政領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 家庭 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 家庭 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 音楽領域 | |
| カリキュラム 開発コース | 音楽領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 音楽 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 音楽 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 保健体育領域 | |
| カリキュラム 開発コース | 保健体育領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 保健体育 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 保健体育 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 美術領域 | |
| カリキュラム 開発コース | 美術領域 | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 美術 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 美術 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | カリキュラム 開発コース | |
| カリキュラム 開発コース | カリキュラム 開発コース | 小学校教諭専修免許状 | |
| | | 中学校教諭専修免許状 | 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教 |
| | | 高等学校教諭専修免許状 | 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、農業、工業、商業、水産、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、宗教、情報、福祉 |
| | | 幼稚園教諭専修免許状 | |
| | | 養護教諭専修免許状 | |
| | | 栄養教諭専修免許状 | |